

お役所文書の句読点は「、。」から「、。」に変えるべし、との検討が文化庁で始まる

英語の文章では句読点が「,.」、日本語の文章では「、。」となるべきところであるが、お役所文書では「、。」が推奨され、日本語と英語のチャンポンとなっているとのことである。

文化庁はこれを「、。」に改める検討を開始したとのニュースである。

下に、経済産業省、文部科学省、環境省、そして文化庁のホームページより文章を引用したが、文化庁以外はすでに「、。」を採用しているようである。

神戸新聞 2019.11.18

コンマ	テン
<p><b>読点「、」の使用やめ「、。」に</b></p> <p>公文書の読点に使われている「、。」(コンマ)について、文化庁が見直しを検討を始めた。民間では「、。」(テン)で記載されているが、中央省庁では1952年の通知に従い、コンマで書くようルール化されている。ただ、半世紀以上を経て、省庁でもテンを使う文書が増加。公文書だけ一般常識から離れているのではないかと。お役所文化の象徴とも言えるコンマを巡り、専門家会議で議論が進んでいる。</p> <p>コンマの使用は52年4月、当時の官房長官が各省庁の事務次官に通知した「公用文作成の要領」で定められた。公文書は「なるべく広い範囲で左横書きとし、句読点にはコンマと。」(マル)を判所や法務省、宮内庁、外務省など使った明記。常用漢字表など二部改訂された部分以外、句読点を省議会議決分科会の小委員会、文部科学省が審査している。文化庁は現在も効力を保持している。しかし、要領に強制力はなく、来春にも結論を出す見通し。</p>	<p><b>お役所文書の象徴見直し検討</b></p> <p>一般社会ではテンが広まった。テンの使用は公的機関にも浸透しつつある。2012年、省庁や地方自治体を対象にしたアンケート結果によると、コンマとマルで統一している省庁は四つ、都道府県・政令市では七つだけ。テンとマルを統一的に使う省庁・自治体が大勢を占めた。</p> <p>「パソコン入力が増えた90年代から、コンマは徐々に廃れていった。露が閣僚が長い官歴は振り返る。日本語入力ソフトの基本設定がテンとなっていることも、ルール無用の一因となっている可能性がある。インターネットではテンの使用が広がり、公式サイトでもコンマを使い続けるのは厳しさを示している。文化庁は文化</p>

## 内閣府

残業時間の削減や賃金格差の是正が議論されて久しい。旧来、これらは労働市場の現象として捉えられ、もっぱら労働市場制度や人事管理制度を設計することで操作可能だと・・・  
経済産業省

キャッシュレス・消費者還元事業の登録を開始しました。詳細は下記をクリックして、キャッシュレス・消費者還元事業専用サイトをご覧ください。

## 文部科学省

大学入試における英語資格・検定試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」については、この度、令和2年度からの導入を見送ることとしましたが、・・・

## 環境省

東京港青海ふ頭において、9月10日、10月7日及び10月9日に特定外来生物ヒアリ(Solenopsis invicta)が確認されたことを受けて、環境省では、・・・

## 文化庁

文化庁が推進する芸術文化活動の取組や、各種芸術文化活動に関する助成制度を御紹介します。

